

木材輸出戦略協議会(鹿児島県志布志市)

【主な品目】

スギ、ヒノキ

【主な輸出先国・地域】

中国、韓国

【輸出取組の概要】

- 平成23年4月に木材輸出戦略協議会を設立し、同年7月から輸出を開始しており、現在は、鹿児島・宮崎県の近隣4森林組合で活動。
- 国内需要の少ない大径材や低質材を4森林組合が連携することにより、短期間で定質、定量、定期の輸出が可能となり、山林所得の向上に繋がるとともに、九州の地理的利便性を生かしながら、中国を中心に販路を拡大。

【輸出実績】（平成23年から輸出開始）

	輸出額(万円)	輸出量(m ³)	出荷時期
平成28年度	35,692	40,886	通年
平成27年度	36,123	40,032	
平成26年度	33,390	36,121	

輸出に取り組んだきっかけ

- ・ 戦後拡大造林された多くの森林が伐採期を迎え、国内では少子高齢化、住宅着工数の減少がみられる中、4森林組合の年間素材生産量20万m³の深刻な課題は、需要先の少ない低質材・大径材の販売先であった。それまで、各組合が単発的に輸出したが量的確保が出来ず継続困難であったが、志布志港は東南アジア方面に利便性が高く、国際バルク戦略港湾にも選定されるため、志布志港を中心に1時間で集荷可能な50kmの範囲である4森林組合で検討し、輸出に取り組はじめました。

取り組む際に生じた課題

- ・ 海外への輸出を展開するうえで、原木の長期的、安定的な供給の確保や、為替相場の変動及び相手国の経済状況に左右されること。また、他国との価格競争の懸念材料及び現地ニーズの情報不足という課題が生じました。



志布志港での原木船積み様子



平成25年8月中国向け 丸太積み込み状況(バルク船)



生じた課題への対応

- 平成23年4月に県境を越えた木材輸出戦略協議会を設立し、4森林組合（鹿児島県曾於市森林組合、曾於地区森林組合、宮崎県都城森林組合、南那珂森林組合）が連携して輸出に取り組みました。
- 国内外の現地視察や市場調査、意見交換を通じた情報収集を行いました。

対応の結果

- 協議会で集出荷することにより、短期間で定質、定量、定期の輸出が可能となり、安定的な木材輸出体制を確立しました。
- 国内需要の少ない低質材や大径材の輸出により、山林所得の向上に繋がりました。

今後の課題・展望

- 中国市場へ良質材や木材製品を売込み、産地間の連携による共同出荷でブランド化を図ります。
- 木材輸出港としてのヤード整備が課題となっています。



韓国視察の様子



志布志港ヤード



志布志港ヤード

【活用した支援・施策】

【ウェブサイト】

【連絡先】担当者名：曾於地区森林組合 山下、TEL：099-475-1875